

金型前に、量産材料で確かめる。

指定材料を「内部品質を確認できる切削用ブロック」へ

市販ブロックがない特殊グレード・GF/CF強化材・軟質材も、必要な厚みに合わせて成形。物性評価、機能試作、高精度切削量産まで一貫してつなぎます。



材料

指定グレード対応

納期

材料入荷後 最短2週間

品質

X線CTで内部を確認

01 IMPブロックが解決すること

1 評価を前倒し

金型を起こす前に、量産予定材料で強度・寸法・加工性を確認。

2 金型リスクを低減

設計変更や金型熟成の前に、成立性をデータで判断。

3 高精度部品を量産

射出では難しい精度・肉厚・多品種形状を切削で製品化。

02 選ばれる4つの理由

01 材料対応力

PP・PEからPPSU・PEEK、GF/CF強化材、機能材、軟質材まで。

02 可変サイズ

必要厚みに合わせ、無駄な材料と切削工数を抑制。

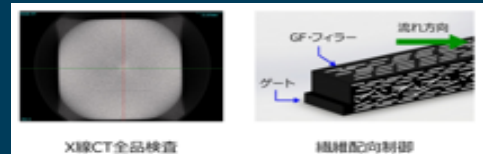
03 品質エビデンス

X線CT、配向、採取位置別データなどを条件に応じて提示。

04 ワンストップ

ブロック成形から試験片・試作品・切削量産まで一括対応。

感覚ではなく、データで判断



- ・X線CTによる内部状態の確認
- ・GF/CF配向と採取方向の検討
- ・アニール、残留応力、切削条件の提案

03 どの工法を選ぶべきか

判断項目	IMPブロック+切削	押出ブロック+切削	射出成形	3Dプリンター
材料	指定グレード・特殊材	市販材中心	指定材可	専用材中心
初期投資	ブロック成形費+切削加工費	ブロック成形費+切削加工費	金型費が必要	造形費から
精度・品質	切削精度+CT確認	素材品質に依存	ソリ・ヒケ影響	積層・表面制約
向く案件	評価・少量・高精度	切削部品（削り代大）	同一形状の量産	形状確認

04 活用用途・導入条件

物性評価

指定材で試験片・モデル製作

機能試作

金型前に量産材で検証

切削量産

高精度・多品種に対応

特殊治具

導電・帯電防止等

代表サイズ（厚み可変）

丸 直径60×10～80t / 直径110×10～70t / 直径150×10～45t ・ 角 70×70×10～100t / 150×150×10～40t
100×205×10～55t / 230×230×5～20t / 110×110×5～80t ・ 丸棒 直径15・20・25×200L・400L